

巻頭言

明倫歯科保健技工学雑誌
創刊にあたって学校法人明倫学園 理事長
木暮 山人

開学年度に本学会誌の創刊になることは、本学の「歯科技工士学」「歯科衛生士学」確立への並々ならぬ意欲の現れであり、本学に集う教職員、学生の皆さんが本学設置の意義を十分に理解し時代の先駆けと成るべく志をひとつにして取り組んでこられた結果と、皆さんの努力に敬意を表します。

いうまでもなく教育の基本は人でありまして、どのように頭脳が明晰でありましても精神が伴わなければ大成しないのであります。有名な中国の古典「四書五経」の中の「大学」においては大学の道を次のように説いております。「大学の道は、明德を明らかにするに在り。民を新たにするに在り。至善に止まるに在り。」(知識や技術の修得も大切であるが、それ以上に大切なのが人格面の陶冶であり、それを目指しているのが「大学の道」である。その大学の道は、三つの骨子から成り立っており、第一は、人間であるからには、だれでも天から授かった立派な徳を持っている。だが、せっかくの徳も人欲によってくもらされてしまうから、常に磨いていかなければならない。第二に、自分を磨いたら、今度はそういう努力をまわりの人々に及ぼしていく。自分ひとりをよしとする態度は許されない。第三は、そういう努力をつねに継続し、最高のレベルに保つことである)

私が校名を「明倫短期大学」と名付けましたのも、建学の理念の第一に「人格の陶冶」を掲げたのも、そのような先人の教えに倣い、まず人としての道がよく身につかなければ、社会に役立つ「知識と技術の修得」も「社会への医療技能の還元」もありえないと考えたからであります。本来、人を育てるということは、各人の能力や性格に応じた指導が必要なものですが、現在の画一化単純化システム化された教育制度は、そういった肌理の細かい対応までがマニュアル化されてしまったため、学生各人の人格形成には個別対応しきれない面があります。そして、昨今ようやく人格形成重視の教育が見直され、日本人の理念に基づいた改革が叫ばれるようになりました。つまり、我が国は、ようやく私達の手で私達の国を創るための準備段階に入ったわけであります。これは私達の努力によって輝かしい将来が切り開ける明るい時代の到来に他なりません。

本学においても歯科技工士、歯科衛生士自らが果すべき役割をよく理解し、そのために必要な研究と教育を施し、それぞれを学問として体系化させ、歯科医療の一端を担ううえで欠くことのできない専門技術者として一人立ちさせることが目的であります。そして本誌によって、本学の目的を達成するため、研究や教育に携わった者はどのように考え、どのように活動し、どのような成果を得たのかが記録として残り、「歯科技工士学」「歯科衛生士学」確立の意義と必要性が示されることは大変重要なことであります。本誌の内容の充実が、より多くの賛同者を得て、本誌の延長線上に「歯科技工士学」「歯科衛生士学」という今までにない新しい学問領域が確立し、歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士の総力を歯科医療・歯科医学の発展の注ぐことの必要性が認識されていけば、高福祉社会建設の輝かしい幕開けが期待できます。そのような発展の発芽を示す本誌が、やがて大きな大樹に成長してゆくことを願い、これからも皆さんのおおいなるご努力を期待し創刊にあたり巻頭の言葉といたします。